

COVER STORY



学生時代によく利用した「The Smith」イーストビレッジ店にて(www.thesmithnyc.com)。「午後でも食べられる”朝ご飯メニュー”がおいしいんです」。



日本人なら誰もが知る大物歌手が駆け出しの新人として2012年7月、ファーストアルバムを引っ提げ全米デビューを果たした。ジャズミュージシャン、大江千里さんは「夢が形になった、実りの多い1年でした」と振り返った。

彼が取材場所を選んだのは、イーストビレッジのレストラン。学生時代に住んでいた家の近所で、よく利用した店の一つだという「アルバム」の原型店はこの店のように学生のごころ徘徊(はいかい)していた場所でも培ったものが大きいです」と言いながら、



◀全米デビューアルバム「boys mature slow」(www.peaceneverdies.com)

「大きな1歩」の時系列チャート (主なもののみ)

- 2012年 1月 ● アルバム制作を開始。
- 5月 ● The New School For Jazz and Contemporary Musicを卒業。
- 7月 ● 1stジャズアルバム『boys mature slow』を全米発売。
- 9月 ● 日本盤「boys mature slow」を発売。「東京ジャズフェスティバル2012」に出演。

2013年 日々練習を重ね、前進あるのみ。

まだまだジャズ山のふもと 日々練習し前進あるのみ

ジャズミュージシャン

大江千里さん

BLTをほお張った。

50歳手前(当時)の素人がアメリカでジャズを志すという事は、決してたやすい道ではなかった。今からさかのぼること2008年。大江さんはジャズを勉強するために来米し、音楽大学に入学した。学友はみんな自分の子供といったもおかしくない世代。初日のオリエンテーションで、ジャズの土壌で育った

「優等生」とは対象的に、全く弾けない自分にかくぜんとした。最初は強制的にESLクラスに入られ、学生ビザが唯一、歌手・大江千里という看板を降ろした素の自分のID。

「なんで自分のフレーズはジャズにならな

いんだらうって悶々としながらも年齢的に無理もできず、マイペースで練習していくしかなかった。でもあきらめずにやってきましたよ

かっと思えます。同級生が早々と卒業していく中、大江さんは4年半掛かり、昨年5月に卒業した。

その努力の日々が血となり肉となって形になったのが、デビューアルバム『ボーイズ・マチュア・スロー』だ。学んだことをいづれ形にしたいと思っていた。そして卒業が視野に入った11年暮れごろ、アルバム作り



昨年5月の卒業式の様子。20代前後の学友らと共に。

を決意。その1カ月後には曲作り、2カ月後にはレコーディングを終了させた。日本では大手レコード会社に所属し関係者が常にサポートしてくれたが、ここではレコーディングの交渉から作品プロデュースまですべて自分。無我夢中で作り出したが、その心の声

が形になったと思います。ジャズが好きなのはもちろ

ん、あまり知らない人でもジャズについていいねって思ってもらえたらうれしいです。

日本では、実は今年デビュー30周年という節目の年。日本サイドからは全国ツアーなどのオフアワーは当然やってくる。しかしそれに浮かれることもなく、大江さんは冷静だ。

「ジャズミュージシャンとしてはまだまだひよっこです。ドアを二つ開けるとその向こうに10個のドアがあって、それをほとんど開け続ける」とドアが100個あつて、「今度は卒業ついでにドアを開けたらそこはジャズ山のふもとで、あれ、まだ登っていないかったんだと気付いたり。だから、ちよつと広がったように思っていて、もいつたんしほめて、学んできたことをもう1度ピアノの上に広げ、自分に足りないものを日々練習し、次の段階にちよつとずつでもいいから進んでいければと思っています。まだ始まったばかりです!」。

昨年大きな1歩を踏み出した人に聞く

'13年わたしの抱負

明けましておめでとうございます。新年第1号では、昨年ニューヨークで何かしらのチャレンジをし、未来に向け大きな1歩を踏み出した5人に、新年の抱負を聞きま

